

平成30年度 磐田市立豊田中学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から	
授業づくり	◎未来や社会につながる授業づくり ○「こころざしを実現する力」を育む場面の設定 ○「こころざし」を育む主体的・対話的で深い学びの実現 ○ESDの視点から教科の本質を押さえた教材研究	授業の内容がよく分かると答える生徒 85%	B	76%	○全国学力・学習状況調査において、本校3年生の学力定着状況は国語、数学の問題A（主に知識）、問題B（主に活用）において、国語、数学ともに全国、県平均よりもやや低い結果となった。「授業の内容がよく分かる」と答える生徒は目標よりも低く76%であった。「進んで先生に聞いたり自分で調べたりする」と答える生徒の割合は72%であった。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・家庭学習：磐田市の方針に合わせ、家庭学習の時間の押さえを全学年「1時間以上」に変更する。その上で、課題の内容を精選したり家庭学習の仕方に関する指導を充実させたりする。 ・ESDの視点に立った教科指導、主体的・対話的で深い学びに関する研修をする。	【学校運営協議会でご意見より】 ・老朽化した校舎だが、清掃や整理整頓が行き届いていて、廊下や教室で生徒が大切にされていると感じた。授業も先生方が工夫されていて、昔のように一方通行ではなく、アクティブラーニング、双方向になってきている。理科や美術ではプロジェクターを使用、やはり新しい時代の授業だと感じた。 ・スクリーンを使っている授業を2クラス見た。分かりやすく、昔と変わったと思った。小中一体校は、近所でもまだ知らない人が多い。周知、納得できる方法を。 ・参観して、我々より真面目に勉強していると感じた。美術でクロッキーなんて僕らの時代なかった。小学校ではこの月から英語学習が増えるし、道徳も教科になると思うが、その辺は磐田市は進んでいる。 ・教育活動の部分で、昨年は学調の結果、全国の平均よりも高かった記憶があるが、今年度低かったのは何故でしょうか。全体的に低めみたいですが、 ・応用の日は、小さい時分から本を読むクセをつければあがってくるのでは？今日の新聞にも載ってましたが、本を読む生徒は学力は上ってます。これ1年2年でずっと上がるものなのでしょうか。 ・これから小中一体校になります。小学校でもっと本を読ませないといけないと思った。 ・ボランティアで放課後学習室の見守りをやっています。生徒の英語の教科書を見て自分も勉強していますが、あそこへ来る子はみんな集中して勉強している気がします。あいう子が全員だったら、もっとこれから上がるんじゃないか。小中一体校になったら、小学校に入った時から本を読むクセを付けるのがひとつの対策になるのではないかと。ぜひそれを先生方全員が共有して、家庭にも浸透させていくとよいと思う。
		進んで先生に聞いたり自分で調べたりすると答える生徒 70%	A	72%		
志づくり	◎未来や社会につながる志づくり ○地域に根ざしたひと、もの、こととのかかわりの推進（地域学習、未来学習、職業講話、職場体験、防災学習等） ◎目標に向かって挑戦する自分づくり ○進路指導 ○道徳指導 ○健やかな心と体づくり	総合的な学習の時間を通して、今の自分や将来の目標について考えたり、自分の意見を発表したりしている生徒 80%	A	83%	○総合的な学習の時間を中心に、1年生の「地域学習」や「ようこそ先輩」、2年生の「未来授業」や「職場体験」、3年生の「地域貢献活動」など、地域の「ひと、もの、こと」との関わりを生かした活動に積極的に取り組んできた。また、校内でも3年生が中学校生活で学んできたことを1、2年生に語る「先輩授業」を実施し、学んできたことをまとめ、発表する機会を設けた。「総合的な学習の時間を通して、自分や将来の目標について考えたり、自分の意見を発表したりしている」と答える生徒は全校で83%であり、昨年度よりも3ポイント上昇した。これは、未来や社会につながるこころざしが育まれてきたことのあらわれと捉えられる。11月に行われた生徒の意識調査では、「地域のことに進んで参加していますか」という質問に、全ての学年で80%の生徒が肯定的に回答するなど、地域の活動に関する意識はたいへん高い。ただ「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と答える生徒の割合は62%とあまり高くなく、「ひと」と「人の想い」への関心と同程度に、「こと」と「もの」への関心を高めていくことが課題である。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・教師が事前にねらいを示し、目的の浸透を図る。 ・活動の目標を意識して活動の途中で教師が生徒の取組を丁寧に見取り、適切に価値付ける。 ・活動後の振り返りを充実させ、めざす姿への視点をもとに教師が個々の生徒の成長を認める取組を行っていく。	
		今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある生徒 70%	C	63%		
		進んで挨拶をすると答える生徒 95%	B	92%		
		難しいと思うことも失敗を恐れずに挑戦していると答える生徒 75%	A	78%		
仲間づくり	◎心の居場所づくり 生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所の提供 ・学年・学級づくり、生徒会活動 ・人間関係づくりプログラム、Q-U ◎絆づくり 生徒が主体的に取り組む活動を通し、自らが絆を感じ取り新しい場と機会の設定 ・鉄人遠足、体育大会、合唱コンクール ・授業での学び合い、協働学習	学級は楽しいと答える生徒 95%	B	88%	○生徒一人一人に所属と役割を与え、心の居場所づくりを準備するとともに、行事等を通じて絆が深まるような生徒の関わりを意図的に仕組んできた。役割を与えられたとき、期待に応えたいと考える素直な生徒が多く、「学級は楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」の質問に肯定的な回答をする生徒は昨年度の90%からは下がったものの、一昨年度の87%と同程度の高水準を維持している。ただ、一部に学級のルールを守ることができず、級友とのトラブルや授業に迷惑を掛ける行為も見られ、その都度、学年を中心に指導を重ねてきている。 ※今年度の活動を踏まえ、以下の点をさらに充実させる。 ・生徒の頑張りや様々な視点から認め、称揚する。（Q-Uの分析結果を活用する） ・世の中の出来事を分かりやすく伝え、未来や社会を意識して自分とつながりや関わりを考えさせていく。 ・子どもにつくという指導をさらに実践し、問題行動等の未然防止、初期対応に努める。	
		みんなで何かをするのは楽しいと答える生徒90%	A	92%		
		自分の学級は互いにルールを守り、協力する雰囲気があると答える生徒 85%	B	83%		
		出席率 95%	A	95%		

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校運営協議会を通じて多くのご意見をいただいた。生徒はまじめに明るく学校行事や授業に取り組んでいること、ICTを含め教師の授業への工夫を評価していただくことができた。協議会は、年3回実施し、委員の皆様には、授業参観や生徒との懇談、立志式の参観の他、総合的な学習の時間や3年生の面接練習の講師などに積極的に関わってくださった。大変ありがたい。全職員が学校教育目標の実現に向け、「志」をキーワードに教育計画をたて、PDCAを回して、同じベクトルで取り組んできた成果である。

生徒・保護者のアンケート項目の数値からは課題も見えてくる。「授業の内容がよく分かる」「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」の項目が減少している。授業を工夫し、ICTを活用した授業やコラボ授業に積極的に取り組んできたが、生徒の理解につながっていない。総合的な学習の時間が充実し、地域や保護者を巻き込んで様々な取り組みを行っているが、生徒の想いにつながっていない。実践に終了してしまっただけは歪めない。これらの点を踏まえ、次年度は生徒の姿や想いにつながり、結果に表れるように全職員で取り組んでいく。

平成31年度は学校教育目標を「志をもち、たくましく生き抜く生徒の育成」を継続する。志を実現する4つの力については、目指す姿を生徒の具体的な姿を全職員で共有する。学校運営組織は学府内の小中では共有し、一体校の開校へつなげる。キーワードは「志づくり」。そのため「授業づくり」と「仲間づくり」の2つの課をおき、小中の連携も図る。ESDの視点に立った教科指導、主体的・対話的で深い学びの研修を深め、地域との連携をさらに充実し、CSの機能を充実させながら全職員で生徒磨きの教育活動を展開したい。